

## 広範囲で多数の施工箇所の進捗の一元管理が可能

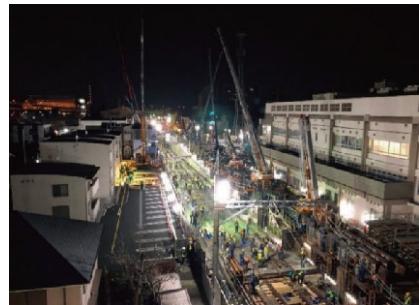
調査・計画 → 連立高架化 → 連立地下化 → 駅改良 → 崩独立体(上空・地下) → 耐震補強 → ICT技術

### お客様のメリット

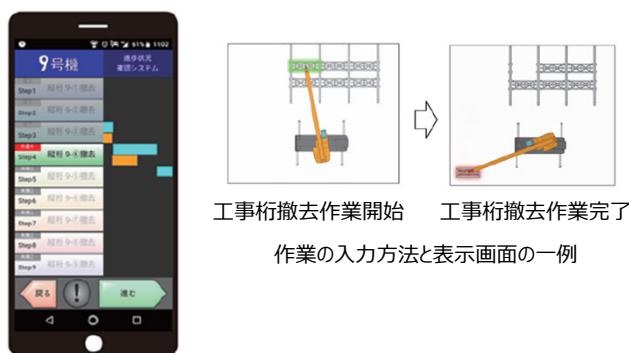
- 作業進捗状況を一元管理することにより、作業の遅れや問題点を早期に発見することができます。
- 工事担当者が直接工事進捗を入力するため、リアルタイムな状況把握が可能です。
- 工事進捗はスマートフォンやタブレットにより誰でも確認が可能です。

### 技術の特徴

線路の切換工事では、限られた時間の中で様々な種類の作業の進捗管理を行なながら、計画的に施工を進める必要があります。従来は、進捗確認を書面・無線でやりとりを行って管理していました。本システムでは、工事担当者がスマートフォンやタブレットを利用して進捗状況を入力するため、リアルタイムの情報を関係者全員で共有することができます。また、事務所にモニタ表示をすることで、作業の遅れや問題点を一元管理し、適切な対応を早期に行なうことができます。



クレーン撤去区間施工状況



①工事桁撤去作業開始  
撤去作業開始を現地担当社員が確認後、スマートフォン、i Pad 等にて進捗状況を入力する。画面の「進む」を押す。進捗状況表示画面のオレンジバーが表示を開始する。

②工事桁撤去作業中  
クレーンブームが撤去する桁の方向に旋回し、撤去する工事桁が緑色に表示される。

③工事桁撤去完了  
撤去完了を現地担当社員が確認後、スマートフォン等の入力画面の「進む」を押すと次の作業に移り、撤去した工事桁は赤色表示となるとともに、進捗状況表示画面（全体図）から表示が消える。進捗状況表示画面のオレンジバーが時間工程実績を示す。



JR東日本渋谷駅埼京線下り切換作業における監視システム運用状況 /撮影協力：JR東日本

### 実績・実例

京浜急行電鉄大師線地下化、JR東日本渋谷駅改良中央工区